

ホクトヘリオス



1984年4月3日生 牡 芦毛
父:バーンナリティ 母:ホクトヒシヨウ(母の父:ボールドリツク)
浦河・斉藤英生産
調教師:中野隆良(美浦) 馬主:森滋氏→金森商事(株)

末脚勝負に 徹し続けた個性派

函館3歳ステークスと京成杯3歳ステークスを連勝し、朝日杯3歳ステークス(現:朝日杯フューリティステークス)は2着。デビュー当時は世代トップクラスの成績を残したホクトヘリオスだったが、皐月賞13着、日本ダービーも13着など1987年は未勝利に終わる。古馬となってからは巻き返しをかけ、マイル路線に専念。そこで見せたのが、後方から追い込むスタイルだった。

互角のスタートを切っても、ポジションを下げて、後ろから2〜3頭目あたりに構える。そこがホクトヘリオスの定位置だ。楽な追走に見えるが、3コーナーで早くも鞍上の手綱は激しく動き始める。手応えが怪しいわけではない。いわゆる「エンジンのかかりが遅い」というタイプなのだ。やがてスピードに乗って最後には必ず差を詰めてきた。が、待っていたのは惜敗に次ぐ惜敗だった。

1988年の春は東京新聞杯2着、スプリンターズステークス3着、京王杯スプリングカップと安田記念は4着。秋には京王杯オータムハンデキャップで久々の勝利をあげたものの、マイルチャンピオンシップが2着、ダービー卿チャレンジトロフィーは3着。1989年も同様で、京王杯スプリングカップと安田記念で4着の後、パラダイスステークス、京王杯オータムハンデキャップ、スワンステークス、マイルチャンピオンシップと4戦連続で3着。現役最終年の1990年には東京新聞杯と中山記念を連勝、「ようやく届いたぞ」とファンから喝采を浴びたが、管理する中野隆良調教師が「調子は安定しているけれど、融通が利かない不器用な競馬ばかり」と嘆くレースを長く続けたのである。

それでも、その実直な末脚は名バイプレーヤーとしてのホクトヘリオスの人気を支え続けた。ニッポータイオー、サッカーボーイ、バンブーメモリー、オグリキャップといったスターホースたちを懸命に追う走り、残した成績は6勝、2着4回、3着が8回。この3着という結果もまたホクトヘリオスの定位置。もし3連単が当時あったなら、頼れる“3着候補”としてより人気を集めたはずである。



1990年★第64回中山記念(GII) 自慢の末脚を披露したホクトヘリオス(帽色・赤)が鮮やかな差し切り勝ち。5つ目の重賞タイトルを獲得した。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
1986. 8. 3	函館	3歳新馬	芝1000	3	59.0	南田美知雄
8.23	函館	3歳新馬	芝1000	1	58.3	南田美知雄
9.21	函館	函館3歳S(GIII)	芝1200	1	1:14.5	南田美知雄
11. 2	東京	京成杯3歳S(GII)	芝1400	1	1:23.3	南田美知雄
12.14	中山	朝日杯3歳S(GI)	芝1600	2	1:35.8	南田美知雄
1987. 3. 8	中山	報知杯弥生賞(GII)	芝2000	4	2:02.8	河内 洋
4.19	中山	皐月賞(GI)	芝2000	13	2:02.8	河内 洋
5.31	東京	東京優駿(GI)	芝2400	13	2:29.6	河内 洋
11. 8	福島	福島民友C	芝1800	3	1:54.3	南田美知雄
11.22	福島	福島記念(GIII)	芝2000	10	2:03.2	南田美知雄
12.11	中山	ダービー卿チャレンジT(GIII)	芝1600	13	1:34.9	南田美知雄
1988. 1.17	中山	中山競馬場開設60周年記念	芝1600	2	1:34.1	柴田善臣
2. 7	東京	東京新聞杯(GIII)	芝1600	2	1:34.9	柴田善臣
3.20	東京	スプリンターズS(GII)	芝1400	3	1:22.1	柴田善臣
4.24	東京	京王杯スプリングC(GII)	芝1400	4	1:21.7	柴田善臣
5.15	東京	安田記念(GI)	芝1600	4	1:34.5	柴田善臣
6.12	東京	エプソムC(GIII)	芝1800	8	1:48.6	柴田善臣
9.11	新潟	京王杯オータムH(GIII)	芝1600	1	1:34.1	柴田善臣
10.30	京都	スワンS(GII)	芝1400	6	1:24.2	西浦勝一
11.20	京都	マイルチャンピオンシップ(GI)	芝1600	2	1:36.0	柴田善臣
12. 4	中山	ダービー卿チャレンジT(GIII)	芝1600	3	1:33.8	柴田善臣
1989. 3.12	中山	中山記念(GII)	芝1800	9	1:49.5	柴田善臣
4.23	東京	京王杯スプリングC(GII)	芝1400	4	1:23.4	柴田善臣
5.14	東京	安田記念(GI)	芝1600	4	1:35.1	柴田善臣
6. 3	東京	パラダイスS	芝1600	3	1:34.4	柴田善臣
9.10	中山	京王杯オータムH(GIII)	芝1600	3	1:33.7	柴田善臣
10.29	京都	スワンS(GII)	芝1400	3	1:22.3	柴田善臣
11.19	京都	マイルチャンピオンシップ(GI)	芝1600	3	1:35.3	柴田善臣
12. 3	中山	ダービー卿チャレンジT(GIII)	芝1600	11	1:34.3	柴田善臣
1990. 2. 4	東京	東京新聞杯(GIII)	芝1600	1	1:34.6	柴田善臣
3.11	中山	中山記念(GII)	芝1800	1	1:48.3	柴田善臣
4.22	東京	京王杯スプリングC(GII)	芝1400	12	1:25.0	柴田善臣
5.13	東京	安田記念(GI)	芝1600	5	1:33.4	柴田善臣
6.10	阪神	宝塚記念(GI)	芝2200	7	2:15.7	柴田善臣

※レース名は当時の表記による

1986年★第38回朝日杯3歳S(GI) 重賞2勝の実績を買われ、堂々の1番人気でレースに臨んだホクトヘリオス(帽色・白)だったが、のちのダービー馬メリーナイスを捉えることはできず2着に敗れ去った。